



新品種の紹介

アルファルファ “北海3号”

独立行政法人農業技術研究機構北海道農業研究センター（以下、「北農研センター」という）が育成し、平成14年度に北海道優良品種となった新品種（品種名は未定です）を紹介します。

北海3号はアルファルファの安定栽培が難しいといわれている地域での栽培に適し、主要酪農地帯でのアルファルファの普及に大きく貢献できると期待されている品種です。なお、種子の流通は2006年以降になりそうです。

生育した姿は、開張型といわれ他の品種に比べ横に広がった感じがあります。根は側根の多い特徴があり凍上害を受け難く、また、秋の休眠性が高く（秋、他品種より早く生長が止まる）、越冬性に優れているため、永続性があり、収量性についても優れています。



図1 新品種「北海3号」

年目以降でその傾向が顕著で、越冬性は優っています。耐寒性は「中～やや強」、雪腐病に対する耐病性は「中～やや強」です。

表1 越冬関連調査

系統 品種	越冬性 ¹		萌芽良否 ¹		春の草勢 ²		
	天北	道平均	天北	道平均	2年 ²	3年 ²	4年 ²
北海3号	5.1	6.2	5.7	6.0	6.3	6.3	7.0
マキワカバ	4.9	5.5	5.0	5.4	6.0	5.6	5.5
ヒサワカバ	4.8	6.5	5.2	5.2	6.4	5.7	5.5

注1：1～9 極良（試験期間平均） 2：道平均

病害発生程度について

葉部の病害であるそばかす病の発生程度は同程度で、パーティシリウム萎ちょう病抵抗性品種です。

表2 病害程度

	そばかす病		パーティシリウム ²	
	天北	道平均	抵抗性個体率	罹病度
北海3号	5.0	4.2	80.4	1.4
マキワカバ	5.4	4.3	81.3	1.4
ヒサワカバ	5.5	4.4	78.1	1.5

注1：微～9：基 2：北農研センター（個体率60%以上、罹病度2.0以下が抵抗性品種）



図2 「北海3号」の根部形状

（以下「マキワカバ」標準品種）、「ヒサワカバ」との比較です。）

早晚性について

出穂始めは「マキワカバ」と同程度で早生に属し、浜頓別町では7月8日頃です。

越冬性関連について

萌芽や春の草勢は優れており、特に播種3

収量性について

4ヶ年の総乾物収量の「マキワカバ」比は105です。特に3年目以降で他品種よりも多収であり、1番草でその傾向が顕著です。

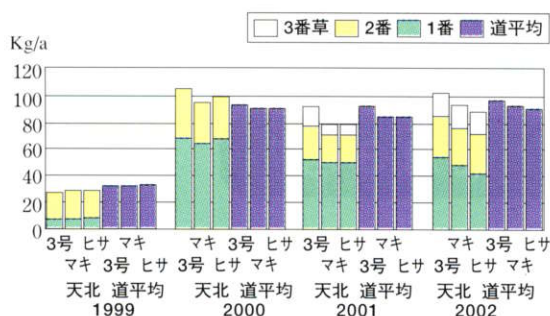


図3 乾物収量

持続性について

4年目の茎数密度、残存株数が多く、2年目の収量に対する4年目の収量割合が高いことなど、持続性に優れています(表3、表4)。

表3 4年目茎数密度と残存株数

系統品種	茎数密度 ¹	残存株数 ²
北海3号	8.3	106.0
マキワカバ	7.0	74.5
ヒサワカバ	6.0	72.5

注 1: 1粗～9密(北見農試)
2: 単播m²当たりの数(北農研センター)

表4 乾物収量の4年目/2年目比

系統品種	天	北	道平均
北海3号	100		110
マキワカバ	96		106
ヒサワカバ	86		103

イネ科草との混播における競合力について
チモシーとの混播: 4年目においてもチモシー割合は「ヒサワカバ」と大差なく、2番

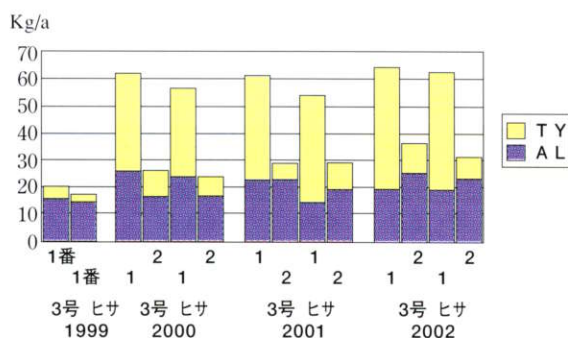


図4 草種別乾物収量(根釧農試)

草でチモシーを抑圧してしまうほどではありません(図4)。

オーチャードグラスとの混播: 2年目以降アルファルファ優先となり、特に2、3番草はその傾向が顕著ですが、その程度は「マキワカバ」と同程度です(図5)。

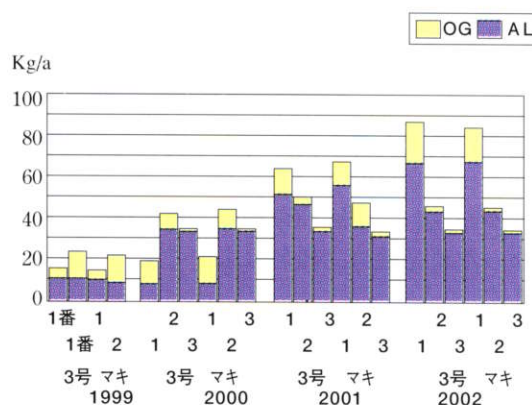


図5 草種別乾物収量(北農研センター)

倒伏と収穫ロスについて

草型が開帳型なので倒伏が大きく評価されがちとなりますが、べったり倒れるわけではありません。機械刈りでの残草割合は同程度で、実用的には問題ありません(表5、表6)。

表5 倒伏程度(1:無～9:甚)

系統品種	天	北	道平均
	1番草	2番草	
北海3号	6.0	4.4	4.9
マキワカバ	3.4	2.0	3.0
ヒサワカバ	3.8	2.0	3.0

表6 倒伏程度と機械刈後残草割合(北農研)

系統品種	1番草	2番草
	倒伏 ¹ 残草 ²	倒伏 ¹ 残草 ²
北海3号	8.3 1.0	8.3 0.6
マキワカバ	6.8 1.7	6.8 0.5
ヒサワカバ	6.5 2.0	6.0 0.7

注 1: 1無～9甚
2: 系統適応性試験における収量に換算した残草%

「北海3号」は北海道全域で、**寒地向けとして最も適応性が高い**品種です。

[問い合わせ先: 研究部牧草飼料科]